

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園
KOHITSUJI

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488
E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人
印刷所：SRS株式会社
定価：一部30円

2016年8月20日
第**399**号

いかなる理由があろうとも、何の罪もなく、全く無防備で抵抗する手段を持たず、この社会において最も弱い存在である彼らに対して、凶器で傷つけ、命を奪うことなど決して許されることはありません。

彼らは私たちと同じひとりの人として生まれながらも、幼い頃から障害に苦しみ、障害に立ち向かい、毎日を懸命に生きていく尊い人たちです。私たちと同じように喜びを感じ、痛みを感じます。彼らの誰一人として障害を持ちたくて持ったわけではなく、ご両親やご家族も健常であることをどれほど願ったことでしょうか。

私たちの仕事は、その彼らに、「困難

の多い人生だけでなく、生まれてきてよかった」と言ってもらえるように日々の生活を支援することにあります。そしてその支援の中には私たちが決して忘れてはいけない大切な何かがあると思います。

「何か本当は一番大切なもの」という言葉に何を思い浮かべるでしょうか。何か漠然とした言葉ですが、その話は、「海のいる風景」という本に書かれています。この本は海さんという重症心身障害のお子さんを持つお母様が書かれた本で、重い障害を持つお子さんを育てることのたいへんさ、悲しみと苦労、そしてそういった日常の中にある希望と喜びが辛辣に、そしてユーモアも交えながら赤裸々に綴られている一冊です。何度読み返しても、読むたびに学ぶことの多い本です。

重症児を育てていると、様々な分野の専門家や有識者から「こうしなさい」「こうありなさい」という多くの助言や指導が行われます。確かにその言葉に従って日々を過ごすことはとても有益なことであることはわかるが、しかし、その一方で何か本当は一番大切なものが欠けているように感じると指摘しています。(以下、本文より引用)たとえば、少々に悪くてもおいしいものを食べて「おいしいね」と笑いあう瞬間とか、理屈もへったくれもなく親子がじゃれあうこととか、ただ一緒にぼうつと過ごす時間とか、そしてそういうことの中に何かとて

つもなくて大切なものがあるのではないかと問うています。

今の社会に失われつつあるものは、まさにこれではないかと思えます。時間に追われ、効率ばかりが重視され、その上で正確さや緻密さも要求され、さらには、親切に、丁寧に、まじめに、安全にと、その求められるものに際限がありません。そしてその裏では、一歩間違ったことをしようものなら徹底的に叩いてやるうとする社会の風潮が待ち構えています。人は果たしてどこまでのパフォーマンス・ヒューマンになればいいのでしょうか。そうしたプレッシャーの中で、余裕、余力、遊びといったものがなくなっていく、人間らしさとか心の平和といったものがなくなるにされてしまっているような気がするのです。

介護や看護という仕事には、本来その根底にやさしさや思いやりの心があります。決して忘れてはいけないもの一つです。しかし、果たしてこれが一番大切なのかと言われると難しいところがあります。「何か本当は一番大切なもの」、それが何なのかを日々問い続けること、答えを捜し続けていくことが、私たちの仕事に、また今の社会だからこそ必要なことなのではないでしょうか。

文献紹介
新版「海のいる風景」児玉真美【著】
発行：2012年 出版：生活書院

夏のイベントあれこれ

ぱびるす

在宅支援センターぱびるすでは8月11日に卒園した子どもたちと保護者の方を招待して夏祭りを行いました。久しぶりの再会に話しにも花が咲き、楽しいひとときを過ごしました。



支援センターわかぎ

お相撲さんのちゃんこイベント
7月26日片男波部屋力士・玉信力さんが来訪し、ちゃんこをつくり利用者・職員に振舞ってくれました。大きなお相撲さんにみんな感激。記念写真をとって大喜びでした。



夏祭り

毎年恒例のわかぎ夏祭りが7月30日に行われました。盆踊り・模擬店・花火を行い、夏の夜をみんなで楽しく過ごしました。当日は、ご家族や、地域の皆さまもお越しくださり盛大に盛り上がりました。

つばさ静岡

夏のいきいきコンサート

7月24日、つばさ静岡の花壇リフォームの際にお世話になった岩辺勝洋さんが団長を務めている【清水室内合奏団】の方々にお越しいただきました。清水室内合奏団は昭和51年にアマチュア合奏団として活動を開始され、今年で41年を迎えられました。年に一度の定期演奏会の他、老人ホームや病院等で演奏されています。今回は、夏のいきいきコンサートと題し、懐かしい曲目から最近の流行曲まで幅広く演奏いただきました。



何か本当は

一番大切なもの

つばさ静岡施設長 山倉 慎二

昨今、世界各地で痛ましい事件が続いています。そういう報道を見るたびに胸を痛めながらも、その一方で、この日本は平和な国なので、そういう悲惨な事件とは無縁なのではないかという幻想を心のどこかに抱いていたような気がします。そんな中、相模原の障害者施設で最悪とも言えるべき凄惨な事件が起こってしまいました。世の中から何かとても大切なものが失われつつあるように感じました。

「何か本当は一番大切なもの」という言葉に何を思い浮かべるでしょうか。何か漠然とした言葉ですが、その話は、「海のいる風景」という本に書かれています。この本は海さんという重症心身障害のお子さんを持つお母様が書かれた本で、重い障害を持つお子さんを育てることのたいへんさ、悲しみと苦労、そしてそういった日常の中にある希望と喜びが辛辣に、そしてユーモアも交えながら赤裸々に綴られている一冊です。何度読み返しても、読むたびに学ぶことの多い本です。

「何か本当は一番大切なもの」という言葉に何を思い浮かべるでしょうか。何か漠然とした言葉ですが、その話は、「海のいる風景」という本に書かれています。この本は海さんという重症心身障害のお子さんを持つお母様が書かれた本で、重い障害を持つお子さんを育てることのたいへんさ、悲しみと苦労、そしてそういった日常の中にある希望と喜びが辛辣に、そしてユーモアも交えながら赤裸々に綴られている一冊です。何度読み返しても、読むたびに学ぶことの多い本です。

第11回 フェスタつばさ

日時：28年9月18日(日)
10時30分～15時
ところ：つばさ静岡 正面駐車場 雨天時決行
静岡市葵区城北117
イベント：職員太鼓・アフリカンドラム・利用者公演・模擬店・バザー、授産製品販売等
フリーマーケット・ゲームコーナー 他
◇問合せ：つばさ静岡
TEL：054-249-2830

第5回 オリーブ祭り

日時：28年9月10日(土)
10時30分～14時30分
ところ：オリーブの樹
浜松市浜北区尾野462-2
イベント：模擬店・バザー、授産製品販売
バンド演奏、ゲームなど
◇問合せ：オリーブの樹
TEL：053-582-3415

編集後記

4年に1度のスポーツの祭典、リオデジャネイロオリンピックが開幕した。日本選手の活躍に一喜一憂しながらテレビの前で観戦している。そのため少々寝不足気味。開幕前には、ロシアのドーピング問題で選手団の参加の是非が大きな話題となり、パラリンピックには参加を認めない判断が下された。夢舞台を目指し努力を重ねたアスリートの思いを、政治的な思惑が絡む判断だけは避けてほしい。

8月に入り酷暑が続いております。夏バテしないよう体調管理に十分お気を付け下さい。

(F)

小羊学園を支える会

2016年度 寄付金報告
7月 受付分 436,300円 (20件)
累計 1,821,000円 (110件)

小羊学園への寄付金振込み先
郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
小羊学園法人本部 ☎053-584-3337

在宅生活を

支える通所事業

障がいのある人たちが、可能な限り在宅で、ご本人らしく暮らせるためには、日中活動の場が大きな役割を果たします。今回は、通所事業の最近の様子を報告します。

「小羊デイケアホーム」

施設長 紅谷 純

小羊デイケアホームは、生活介護事業所として自宅・グループホームから現在27名の利用者が通所されています。平成25年度にサテライト施設として「ぼるしあ」を立ち上げて3年が経過し、利用者も落ち着いて活動に取り組みています。活動については、クッキー作りやパウンドケーキ作り・畑作業・創作活動などに取り組んでいます。活動の種類が様々ある中で、利用者は自分ごとの活動に参加したいかを決め、自らが選んで決めることを大切に、エンパワメントを高める支援を心掛けています。自己選択や自己決定が日常生活の中でごく当たり前のようにできること、その大切さを考えながら取り組むことで、達成感や充実感も同時に得られるのではないかと考えます。

一方で、自分の意思を相手に伝えることが難しい方もいますが、意思が汲み取れないから分からない...と投げ出さず、相手の気持ちに耳を傾けた姿勢で想いを汲み取り、選択や決定をするまでの過程「プロセス」を丁寧に行うことで更に充実した日中活動の提供ができるのだと思います。頑張ったクッキー等の販売へ行くと、大勢の方が購入して下さり、利用者も一緒に手伝いながら一般市民の方と挨拶を交わすことや褒められることに喜びを感じ、とても張り切っているようです。褒められることや認められることは、とても嬉しく心地のよいことであり、また頑張ろうとそんな気持ちになってくれると願っています。

充実した日々繋がる支援を組み立てるには、個別支援計画書が重要になり、アセスメントや親御さんからの聞き取り、その他の情報も合わせながら考え、更にはケース担当者としての思いを加えながら計画を立てていくことが必要です。ご本人やご家族と個別面談を実施しながら、ベストな支援をみんなで考えることを今後も大切にしたいと思います。

通所施設は、在宅支援の一つとして、特別支援学校へ通う生徒さんの卒業後の進路先として期待されていると感じます。進路先として小羊デイケアホームを選び、実習を行った後に、親御さんからはとてもありがたい評価を頂く事が

をベースとした在宅支援の在り方を、マルカートとしても考えていきたいと思っています。



フラワーパークへ遠足！

「オリーブの樹」

施設長 三室 龍一

浜北区の北部に位置するオリーブの樹は4月で10周年を迎え、11年目に入りました。現在は『生活介護』『就労継続支援B型』『放課後等デイサービス(わかな)』の3つの通所事業(児童通所)を行っており、利用されている方も、70名を超えています。

生活介護では、パン作りをはじめ、空き缶つぶしや内職作業などを行い、就労では、委託の清掃業務や草刈り、一般企業の工場内での内職作業など中心に活

多いです。ご本人も頑張れたことやデイケアホームで大切にしていることが伝わったことで喜んで頂ける事業所となっていることが働く我々にとっても嬉しさに繋がっています。年齢が若い方は、とてもエネルギーが溢れ、元気に満ち溢れています。どの家庭や事業所でも高齢化という現実にも直面することが多くなり、小羊デイケアホーム設立当初から利用されている方は45歳を超えています。高齢になつた方と、元気に満ち溢れる方と一緒に活動していく中で、時には危険な場面も見られます。その都度改善策を考え、安全に配慮した支援ができるよう今後も心掛けたいと思います。ご本人が年を重ねれば保護者も同様のことだと思えます。出来る限り安心できる自宅での生活が少しでも継続できるように、日中活動を充実させながら家族へのサポートも十分行うことが大切だと感じる日々です。



なばなの里、日帰り旅行

動を展開しています。

オリーブの樹の活動は『作業活動』が中心であり、法人内の他通所事業所よりは『仕事の』な意味合いが強い事業所だと思いますが、活動は基本的に利用者のペースで行うことを大切にしています。また、「毎日行うこと」を大切にしており、利用者それぞれが活動班に所属し、その班ごとで毎日役割を担っています。継続することで自分の役割が理解でき、役割を行うことで認められ、やりがいや生まれ、結果として地域に貢献できることが一番ではないかと思いついています。利用者の皆さんが地域を意識した活動は難しいかもしれませんが、私たち職員が利用者の活動を地域に発信し、地域との関わりを作っていくことが求められていると思います。

最近オリーブの樹に多く寄せられる相談として、進路の問題があります。これは、学校からの卒業後の進路だけではなく、精神科病院等からの退院後の進路も含まれています。毎年多くの方からの利用希望を頂き、なるべくご希望に沿う形で利用をお受けしてきました。しかし、一昨年あたりから利用希望が急増し、「ご希望に沿うことができない状況になつていることも事実としてあります。

この背景には、浜松市内の通所事業所(生活介護)の多くが、定員を満了してきている状況があるからだと思えます。オリーブの樹も本年度で生活介護は定員

「マルカート」

施設長 雨宮 寛

マルカートが開設して12年目になります。これまで何度か紹介されていますが、マルカートは、アンサンブル江之島(浜松福祉協働センター)という建物で生活介護の事業を行っています。20名定員で現在登録者は22名です。利用者の平均年齢は、37歳で今年高等部を卒業した方から68歳の方までが通所し活動を行っています。

最近の活動の様子としては、マルカートの代名詞になつている「らっきょう」作業が丁度終わったところです。収穫から商品加工、販売まで利用者それぞれが参加できる形で作業を行っています。例年、保護者の方はじめ法人内事業所・教会関係の皆さんへ販売させてもらい大変好評を得ています。保護者の皆さんには、収穫や加工の際にお手伝いを頂きこの時期は、オールマルカートで取り組んでいます。しかし、今年は、天候の関係もあり不作となり、例年のように皆さんへお届けすることができず残念でした。

マルカートを利用する皆さんの年齢も障がいの様相も開所当時からすれば、変化してきています。歩行の不安定さや体力面の低下などから、いわゆる介護的な支援の必要性も増してきているように感じます。このことは、家庭においても

に達しましたが、利用希望は3年・4年先までの方からお声を頂いています。在宅で生活されている障がいのある方が、地域で安心して暮らすことができ、地域で安心して暮らすことができるように行政に訴えかけ、事業所としてどのようにこの問題に取り組んでいくか検討していかなくてはなりません。また、グループホームなどの生活支援についても同時に考えていかなければならないと思います。

『放課後等デイサービス』を利用していらっしゃる子ども達も、この先安心して卒業できるように、そしてオリーブの樹の利用者も自信を持って『地域生活(自立)』ができるようにオリーブの樹として様々な活動を展開していきたいと思っています。これからもオリーブの樹・わかなの活躍にご期待ください。



一泊旅行でディズニーランドへ行きました！